

## 外国語WGにおけるとりまとめのイメージ（案）

●これまでの成果・課題・方向性に関する議論を踏まえ、とりまとめ。本日は、これまでに議論が十分でない点を中心に議論。

※現状・課題については、各種調査(小学校外国語活動実施状況調査、中・高等学校の英語力調査など)

※小学校部会、※外国語WG（1月12日）まとめ

※「英語教育の在り方に関する有識者会議」（報告：26年9月） など

### 1. 現行学習指導要領の成果と課題

### 2. 育成すべき資質・能力を踏まえた教科課程の構造の在り方とカリキュラム・マネジメントについて

○外国語教育を充実するための「カリキュラム・マネジメント」の意義、効果的な実施の在り方

○短時間学習の実施を含めた、効果的で柔軟なカリキュラム・マネジメントの在り方

※「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面（教育課程企画特別部会「論点整理」22ページ参照）

① 教育内容を、一つの教科に留まらずに各教科横断的な相互の関係で捉え、効果的に編成する。

② 子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程の編成、実施、評価、改善のサイクルを確立する。

③ 教育内容と、指導体制やICT活用など諸条件の整備・活用を効果的に組み合わせる。

### 3. 育成すべき資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

#### （1）教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方

（参考：たたき台）

◇ 外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、情報や考えなどを活用して、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うこと

※ 別添資料8 外国語教育における「見方や考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ案)

#### （2）小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理と、教科等目標の在り方

① 資質・能力の三つの柱（教育課程企画特別部会「論点整理」10～11ページ参照）

i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）

ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）

② 小・中・高等学校を通じて①児童生徒の学びを円滑に接続させるため、小・中・高等学校を通じて一貫した目標・内容、学習過程の在り方について、発達段階に応じてどのように充実を図るか。

別添2:資質・能力の三つの柱に沿った小・中・高を通じて外国語教育において育成すべき資質・能力の整理(たたき台)

別添3:(参考)資質・能力を支える基盤としての言語能力向上の観点と外国語教育における改善・充実の方向性

(たたき台)

別添5:「英語」において特に重視すべき思考力・判断力・表現力等の例

別添6-1:小・中・高等学校を通じて一貫した目標設定の在り方について

6-2:小・中・高等学校を通じた外国語教育のイメージ

### (3) 資質・能力を育む学習過程の在り方

○外国語教育として、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学びを推進する視点も踏まえ、どのように充実を図るか。

※アクティブ・ラーニングの三つの視点(教育課程企画特別部会「論点整理」18ページ参照)

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

別添4:資質・能力を育成する学びのプロセスの要素イメージ

別添7:外国語教育の目標と学習過程の全体像(案)イメージ

### (4) 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

○小・中・高等学校の学習評価の在り方

- ・評価の三つの観点
- ・各学校が設定する学習到達目標(CAN-DO形式を含む)との関係
- ・多様な評価方法(パフォーマンス評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等)等

別添7-1:外外国語教育における観点別評価・たたき台(イメージ)案

別添7-2:外国語教育における目標、学習プロセス、評価の構造(イメージ)

---

## 4. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

---

### (1) 科目構成の見直し(該当する教科のみ)

- 高等学校「外国語」の科目等の見直し
  - ・4技能総合型(必履修科目を含む)の科目、発信能力育成型(「発表、討論・議論、交渉」などの「話すこと」及び「書くこと」をより重視した技能統合型の言語活動が中心)の科目の在り方(再掲)
- 高等学校「英語」(専門教科)の科目等の見直し
  - ・「外国語」と同様の枠組みで、内容やレベルを高度化
  - ・特に「話すこと」、「書くこと」において高度な能力を育成するための科目の設置

### (2) 資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の構造化

### (3) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

---

## 5. 学習・指導の改善充実や教材の充実

---

### (1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実

※特別支援教育部会資料より【配慮の例】

(外国語活動の例) 音声を聴取することが難しい児童の場合、外国語の音声(音韻)やリズムと日本語との違いに気付くことができるよう、音声を文字で書いてみせる、リズムやイントネーションを記号や色線で示す、指導者が手拍子を打つ、音の高低を手を上下に動かして表すなどの配慮をする。また、活動の流れがわかるように、本時の活動の流れを黒板に記載しておく。

### (2) 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善充実 (ICTの活用についても触れつつ)

※ 別添 14:外国語教育におけるICTの活用について(たたき台)案

### (3) 教材の在り方

---

## 6. 必要な条件整備等について(1)

---

- 教員の英語力・指導力の向上や外国語指導助手等の外部人材の活用などの条件整備
  - ・中教審・教員養成部会等の議論、
  - ・教員養成・研修・採用の在り方 等

## 外国語 WG におけるとりまとめ(議論の詳細)のイメージ (案)

言語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、身近な話題から幅広い話題について、外国語で的確に理解したり適切に表現し伝え合うことができるコミュニケーション能力を養うため、目標、指導内容、学習・指導方法、学習過程、学習評価等の在り方について、主に次のような事項について検討。

### ○ 小・中・高等学校を通じて一貫した教育目標(指標形式の目標を含む)・指導内容、学習過程等の在り方

- ・学校が設定する学習到達目標等との整理
- ・指導する語彙数、文法事項、CEFRとの関係整理 等

### ○ 言語能力を向上させるための国語教育と外国語教育との連携

- ・目標、指導内容・方法等全体に関して
- ・言語の仕組み(音声、文字、語句、文構造、表記の仕方等)、言語活動 等
- \* 言語能力の向上に関する特別チームにおける検討状況を踏まえた整理

### ○ 小学校の活動型、教科型

- ・論点整理で示された指摘(目標・内容とともに、短時間学習の活用など)

### ○ 小・中連携

- ・小学校高学年から中学校への学びの接続の考え方、学習・指導方法等

### ○ 中学校の改善の方向性

- ・互いの考えや気持ちを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視、授業は英語で行うことを基本とする

### ○ 高等学校の改善の方向性

- ・発表、討論・議論、交渉などの言語活動の高度化
- ・「外国語」の科目の見直し(4技能総合型(必履修科目を含む)、発信能力育成型(「発表、討論・議論、交渉」などの統合型言語活動が中心)の科目の在り方)
- ・専門教科「英語」の科目の見直し(「外国語」の枠組みを踏襲しつつ、内容・レベルを高度化)

### ○ 英語以外の外国語の扱い

### ○ 中・高等学校連携

- ・中学校から高等学校への学びの接続の考え方、学習・指導方法等

## 中・高等学校における現状・課題・改革の方向性(これまでの主な論点)

## 1. 中・高等学校の課題

## 〈中学校〉

- 平成27年度英語力調査において、4技能全てにおいて課題がある。また CEFR の A1 上位以上の割合が「聞くこと(20.2%)」、「話すこと(32.6%)」、「読むこと(26.1%)」、「書くこと(43.2%)」など4技能がバランス良く育成されていない。
- 特に、「書くこと」の得点者は A1 上位レベル以上の割合が 43.2%と高いが、一方で、無解答者が 12.6%となるなど全体にバラツキがある。  
※中学校卒業時に求められる英語力は、「第2期教育振興基本計画」期間(H25～29 年度)の目標:英検3級程度以上を達成した中学生の割合50%)となっている。

## 〈高等学校〉

- 平成~~26~~<sup>27</sup>年度英語力調査においては、依然として4技能全てにおいて課題がある。平成 ~~26~~<sup>27</sup>年度同様に、特に、「話すこと」及び「書くこと」における発信力について課題が大きい。
- 一方で、4技能いずれにおいてもCEFRのA1レベルの人数の割合が減少し、A2レベル以上が増加するなどの改善が見られる。
- また、「書くこと(2問)」の無回答の割合が減り(約 30%→18%)、得点者は 10%以上増加(約 70%→80%)している。
- 高校生の多様性への対応が課題である。

## 2 今後の改革の方向性

- 小学校から高等学校まで一貫して、国が技能ごとに能力記述文(CAN-DO)で指導目標を示すことの重要性

→ 論点整理を踏まえ、社会に開かれた教育課程を目指して、指標形式の目標も含めて学習指導要領に~~位置づける~~入れ込む必要性

- 中学校における改善・充実

- 互いの考えや気持ちを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視する。
- 授業は英語で行うことを基本とする。
  - 授業は英語で行うことを基本とする」の必要性  
(「英語教育の在り方に関する有識者会議」では高等学校との接続などを指摘)
  - 小学校との接続については、特に中学校初期段階においてどのようなつまずきがあるのか、小学校高学年における方向性がどのように中学校での学びにつながるか(別添資料参照)、小学校高学年の教科化により中学校の学習は具体的にどのように変わるか、その効果など
  - 中・高等学校の学びの接続の在り方
    - ・中学校から高等学校への学びの接続の考え方、学習・指導方法等

## ■ 高等学校における改善・充実

- 高等学校卒業段階で求められるレベルは、英語力調査等の結果も踏まえつつ、
  - ・必履修科目で CEFR の A2 レベル、選択科目で B1 レベルを想定
  - ・留学や進学などの目的に応じて高い英語力を目指す高校生もいるといった多様性を踏まえ、B2 レベルを目指す生徒へも配慮し、学校設定科目などで対応することを想定
  - ・専門科目の在り方(科目構成や内容等)
- 中学校段階での学習が十分には定着していないといった課題のある生徒も含めた高校生の多様性や、英語で行うことを基本とする授業への対応
  - ・必履修科目(特に学習の初期段階において)共通で学びなおしの要素を入れる必要性
- 聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりするといった、技能統合型の言語活動の一層の重視

## ■ 高等学校における科目の見直し

- 「コミュニケーション英語」Ⅰ～Ⅲ等の課題を踏まえた科目見直しの方向性
  - ・中学校との接続が不十分であるため、中・高等学校の学びの接続を改善する観点から、現行の「コミュニケーション英語基礎」の要素を「英語コミュニケーションⅠ」(仮称:必履修)に組み込んで、中学校における学びの確実な定着を図るための内容を含めて見直し
  - ・現行の教科書において、言語活動の割合が低い、文法シラバスになっている等の問題
  - ・教科書に基づく学習を改善する観点から、例えば、
    - 目標と課題(タスク)の明確な提示
    - 「聞くこと」や「読むこと」による英文からの情報や表現の取り込み
    - 課題解決のための言語活動という流れで学習することが必要(教科書などの英文そのものは、言語活動を行うための素材であるという考え)
  - ・生徒が興味関心を持てるような、日常的な話題から時事問題・社会問題にいたるまで幅広い話題を提供
- 「英語表現」Ⅰ～Ⅱの課題を踏まえた科目見直しの方向性
  - ・現行の教科書の多くが文法シラバス中心で、科目の趣旨を生かし切れていない
  - ・4技能を活用しつつ、「話すこと」及び「書くこと」の技能を中心として、幅広い話題について発表(スピーチやプレゼンテーション等)、討論・議論(ディベートやディスカッション等)、交渉などの言語活動を行うことができる内容へ見直すことが必要

■ 4技能を総合的に育成するための中・高等学校の教科書・教材の改善・充実

→ 中・高等学校の教科書・教材の課題

・生徒が興味関心を持てる内容が不十分

⇒ 生徒が発信したいと思える題材を扱うなどの工夫が必要

→ 中・高等学校について、指標形式の目標設定が教科書の改善につながるような整理が必要。例えば、言語活動の比重が低い現状から、学習指導要領の内容の実現のために言語活動が改善・充実されるような視点が必要。

→ 高等学校については、科目の見直しに対応した改善・充実が期待される

国の指標形式の主な目標

	聞くこと	話すこと(発表)	話すこと(やりとり)	読むこと	書くこと
小学校・外国語活動 + 小学校高学年・外国語	アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかがわかるようにする。 挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表わすごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。	定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。 自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。	挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。 相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など)があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。	ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。 音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。	目的を持ってアルファベットの大字と小文字を活字体で書くことができるようにする。 例文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。
小学校高学年・外国語 + 中学校・外国語	挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。	簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。 日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。	相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。 相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。	日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。 身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。	自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。 ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

	聞くこと	話すこと(発表)	話すこと(やりとり)	読むこと	書くこと
中学校・外国語のスタート段階での生徒の状況	指導者の英語による基本的な指示等は、理解できている。 身近な事柄や出来事について平易でごく短い会話や説明は、理解することができるできている。	挨拶、簡単な自己紹介ができる。(名前、好み・嫌悪、欲求、要求を表明する) 相手に行動を促すことができている。	挨拶、相手の好み、欲求、要求について尋ねたり答えたりできるとともに、行動を促したりできている。	アルファベット大小文字を認識できている。 見慣れた単語を類推して読むことができる。 アルファベットの音を認識できている。	アルファベット大小文字を正確に書くことができている。 見慣れた単語を正確に写すことができる。 英文を書くルールについて理解できている。
中学校・外国語のスタート段階における指導	指導者は、英語で指示をする。 教科書の初出の内容の概略を、ジェスチャーや実物、半具体物を用いて、口頭で簡単に説明する。	挨拶を含め、10文程度のスピーチをさせる。	教科書の内容の事実についての質疑応答をする。 ペア、グループで好み・嫌悪、欲求、要求についてやりとりさせる。	見慣れた単語について、アルファベットの音を足し算して、あるいは、類推して単語を読ませる。	英文を正確に書き写させる。

< 現行学習指導要領における状況 > 中学校スタート段階に該当すると思われるものを抜粋

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
現行学習指導要領 内容	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。	文字や符号を識別し、正しく読むこと。	文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
国研・評価資料に示す「評価規準の設定例」等より	強勢やイントネーション、区切りなどの特徴を捉えて聞き取ることができる。 質問や依頼などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。	正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話すことができる。 適切な声量や明瞭さで話すことができる。	文字や符号を識別する知識を身に付けている。	文字や符号を使い分ける知識を身に付けている。